

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900094		
法人名	極東警備保障株式会社		
事業所名	グループホーム大空 Aユニット		
所在地	旭川市永山2条21丁目2-12		
自己評価作成日	令和1年 5月 27日	評価結果市町村受理日	令和1年 8月 7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172900094-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172900094-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和1年 7月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの方針「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を意識しながら、利用者様とふれあうよう努めている。日課にとらわれず入居者様それぞれの生活ベースにあった暮らしができるよう支援できている。役割を分担して職員と一緒にお手伝いしていただき、笑顔を引き出せるよう努めている。利用者様一人ひとりの尊厳を大切に、明るく楽しいアットホームな雰囲気作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム大空は、複数の福祉事業を展開している法人が最初のグループホームとして開設して15年経過しています。バス停や最寄りの駅からも徒歩圏内で、周辺の住宅街に溶け込んで立地しています。利用者の高齢化に伴い、介護度や医療依存度の高さもあり全体での外出事は困難ですが、近場での散歩や花見、ドライブで神居古潭や道の駅などを訪れています。運営推進会議では、地域住民の出席率が高く、また、共催で花火大会を行うなど地域とは良好な関係を構築しています。日常のケアに関しては、服薬の確認を複数の職員で行い、身体拘束や虐待は絶対に行わないなど、常に利用者の立場に立ったケアの周知徹底を行っています。職員は、声かけなどで雰囲気作りに努め、できない事を支援し、理念にある「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を実践しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は事業所の理念に基づき日常的に意識し業務に取り組んでいる。毎日朝礼を行い職員全体で理念を意識づける為読み上げる取り組みを行っている。	理念を踏まえた個人目標の設定等で意識付けを図り、ケアサービスで実践に努めています。また、新入職員には管理者が理念の意義を説明しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのお祭りや夏には、町内会、近隣の方達と合同で花火大会を毎年開催している。又、旭川大学の看護学科の学生達と毎年交流している。	町内会と共催の花火大会は、地域行事として定着しています。利用者と見物する地域の各種祭りや、看護実習生、傾聴ボランティアの来訪は、地域交流の機会となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーに地域の方、町内会長、民生委員に参加していただき、認知症状への対応、介護支援の方法の情報提供、研修の参加を促している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度、年6回開催し、その場で災害対策、感染症対策、その都度取り組んでいることを具体的に報告し、意見を頂いてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には、メンバーの声かけにより多数の住民参加が得られていますが、家族の参加が困難になり、解決策を模索しています。身体拘束廃止など、リアルタイムな議題に沿って意見や情報交換が行われています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村、地域包括支援センター等の主催する研修や行事に参加し情報を共有できるように取り組んでいる。連絡をしすぐに情報をもらえるように連携をとっている。	管理者は、書類提出時や相談等で担当窓口を訪ねたり電話で意見を得ています。運営推進会議や利用者の状況確認、実地指導で来訪の行政職員からも、助言を受けています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しい理解、知識を持てるよう定期的に内部研修・外部研修に参加するように努めている。毎月不適切ケア防止も具体的にある例を上げ定例会議にてスタッフ同士の意見交換をし実践、結果を報告し再度内容を検討する機会を設けている。	理念の背景や根拠を語源化した指針に基づき、身体拘束適正化対策委員会の開催、内・外部研修や勉強会等で職員の共通理解に繋げ、言葉遣いなどケアサービスに活かしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やスタッフが高齢者虐待防止についての外部研修への参加や内部研修を行い、その意味を理解できるように努めている。日常的にも注意し入居者の身体状況をこまめに管理者へ報告を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が率先して外部研修に参加しており、その内容は内部研修、定例会議等で発表し職員内で共有するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、解約、料金改定の際等に本人や家族十分に納得できるよう、不安や疑問が残らないよう説明を行い手続きを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に意見箱を、苦情等の第三者機関への申し出先を見やすい場所に明示している。意見、苦情があった場合は速やかに対応し納得いただけるように努めており、今後に反映するように努めている。	家族には、来訪時や毎月の月間予定表、不定期に発行する事業所便り、都度の電話等で利用者の日常を伝えていきます。利用者や家族から出された意見は、迅速に改善策を検討していきます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案を出しやすい環境を作っている。また、毎月の会議で職員の意見を自由に述べられる時間を作り、話し合いながら反映するように努めている。	職員が働きやすく向上心を持てる取り組みとして、研修参加の促しや職員アンケート、ストレスチェック、個人面談を行っています。職員は日常業務や会議等で意見や提案を率直に述べています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が日頃の勤務状況をみて評価している。職員個々の実績・勤務状況等を把握し、又定期的にストレスチェック、必要に応じ面談もを行い、やりがいをもち働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を受けられるよう機械をつくり、参加するように努めている。研修に参加した後、その内容を会議の時に発表し、全職員での共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホームの研修にできるだけ参加し、それ以外の研修等にも参加できるように努めているが、まだ同業者との交流・連携は足りないとと思われる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、要望や不安を聞き取りをするようにしている。又、その後の入居者の生活状況を観察し、本人の訴え、気落ちを受け止め、対応を行い関わりを持つように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて要望や悩みを聞きとるようにしている。それをもとに今後どのように援助していくかを話し合いながら生活できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている事を聞き取り、生活に必要なサービスを見極め提供できるようにしている。希望ある方には外部からボランティアも来ており、いろいろ話を聞いてもらえるような環境を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒におしぼりたたみ、洗濯物たたみ、食器拭き等を行って関係を築いている。何気ない会話から過去の生活で自慢できるような話を聞きだし、自尊心をくすぐるような声掛け、対応をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時に最近の状況等を報告し、安心頂けるようにしている。また、居室まで案内し、本人と一緒に時間を設けるようにしている。家族より希望等があれば可能な限り対応するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族や友人が来訪されたり、本人と話をされています。時には、外泊もされており関係が途切れないよう支援している。馴染みのボランティアの方も定期的に来られ会話を楽しまれている。	高齢化により社会的繋がりや懐かしい場所への外出希望は殆どありません。職員は、生活歴や情報を基に、馴染みの方の来訪受け入れや昔の思い出話を聞くなど、関係性を大事にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士を隣にしたり、トラブルが起きないように間に入り、配慮に努めている。他者と関わりたくない方にも、職員が話し相手となり他入居者とトラブルにならないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方にも連絡をさせて頂いている。家族からの相談がある場合は、できる限りフォローさせて頂いている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話をして意向の把握をできるよう努める。また意思疎通が困難な方でも深く関わることで少しでも希望を引き出せるよう努めている。家族からの意見も取り入れている。	高齢化に伴い意思表示が困難になっていますが、関わりの中で得た情報から好きな雑誌を提供するなど意向の引き出しに努めています。食事の好みや買い物、散歩などの要望に応じています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の以前入居されていた施設や病院、家族から生活状況等を詳しく聞き出しており、それを可能な限り反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の身体観察、スタッフからの報告、個人の記録等を参考に入居者の生活状況を把握し、状態の変化があればスタッフ間で情報の共有をし日頃の個人ケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らしていただける為に、課題とケアについて本人、家族、スタッフと話し合い、ケアプランの変更、本人、家族に再確認しモニタリングに活用、担当スタッフの情報をもとにサービス担当者会議で収集しケアプランの作成に活かしている。	介護計画の見直し時は、事前に得ていた利用者・家族の要望や医療関係者の意見を基に、課題分析や評価等を全職員で行っています。介護計画の実践は、個別の記録で確認できません。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、記録にて情報の共有を行っている。早番、日勤、夜勤は入居者のケアプランに沿って記入している。体調変化した際や夜勤帯の記録は色分けし把握しやすく工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月スタッフ会議を実施し、研修にてケアについて再確認、技術指導の実施、各ユニットに分かれ、入居者についての生活状況、身体状況の意見交換、外部研修にも積極的に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の子供達や旭川大学の看護学科学生達と合で開催している行事に参加し交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望している医療機関、看護師による週一回のラウンドの実施、入居者の通院に同行し適切な医療を行っている。	協力医療機関の往診もありますが、病院送迎車の協力もあり8名の利用者が月1回受診しています。希望によるかかりつけ医への外来受診は職員が同行し、家族に結果を報告しています。週1回の訪問看護師による健康管理も行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に医療連携を図っている看護師が訪問し入居者のバイタルや体調の観察をし身体状況の把握をしている。24時間電話での入居者の体調変化に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された入居者様の居室は2か月間空けてお待ちしています。その間は定期的に医療との連携し入居者様の状態を知り退院後の受け入れに心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に本人・ご家族の方の意向に出来る限り添えるよう医療機関と連携し、対応できるように準備を行っている。	契約時に指針に基づいて利用者や家族に説明し、看取りへの意向を確認しています。家族や医療関係者と方針を共有し、態勢が整備された時点で看取りケアの開始としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの設置・全スタッフが対応できるように周知させている。消防署が行っている救急救命の講習に管理者スタッフが参加し訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	第2回の防災訓練を実施し、消防署から講師の方を迎え、防災についてスタッフが学べる機会を設けている。	運営推進会議で、地域の方々に非常時での協力を依頼しています。年2回消防署や防災業者の指導を得て、日中・夜間想定避難訓練を行っています。今年度から年1回防災訓練を加えています。災害時備蓄品も随時用意しています。	8月に地震想定避難訓練を計画していますのでその実行と、入浴や排泄時などケア場面に於ける対応の取り組み、災害時避難場所の家族への周知も期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、語り・プライバシーを損ねない様留意し、内部研修等でも話合うようにしている。個人が特定できるものは必ずシュレッター処置をしている。	理念の一節に「人としての尊厳を守り…」と謳っており、その実践に努めています。言葉遣いなど、職員間で注意しあえる環境になっています。個人情報の取り扱いも適切に行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で本人の希望や意思を尊重するように努めている。何をしたいか相談を常にするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	今までの生活リズムを尊重し、自分らしい生活ができるように心掛けている。散歩や外出の希望があれば可能な限りが叶えられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣服を選べる方には好きな恰好をして頂いている。選べない方には本人の好みの恰好をしてもらい恥ずかしくない服装で過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いを把握し食べられない食材には代替品を用意している。又、個々にあった食事形態を把握、提供し食べやすいように工夫している。	食材や献立は法人から届き、調理職員が彩りや盛り付けに配慮ある食事を作っています。食事作業を共有することは困難ですが、ユニット合同でおやつ作りを行ったり、外出時にアイスクリームを食べたりと食の楽しみに繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の摂取状況を表にして把握しやすくしている。、又、体重測定や健康診断を参考にし主治医と相談しながら栄養剤や錠剤の処方をしてをされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。一人ひとりの口腔状態に応じて、口腔スポンジや舌ブラシを使用し清潔な状態を保持できるように取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、排泄方法を把握し排泄の失敗やおムツの使用を減らせるよう努めている。本人、家族、職員で検討しながらその人にあった排泄ができるよう支援している。	排泄時は、プライバシーや人格の尊重に配慮しています。一人ひとりに合わせた対応により、失敗の軽減に結びついています。衛生用品使用時は、利用者や家族の意向と職員の提案を踏まえて検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事材料の工夫、水分摂取で自然排便を促すようにしている。便秘症の方は主治医と相談しその方にあつた下剤の調整もしており、必要に応じて医療連携先で浣腸施工もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は最低週2回を基本としているが、希望があれば随時入浴できるようにしている。本人の希望に合わせて職員が入浴支援出来る様にしており、時間帯もその人の希望時に提供している。状態に応じて清拭も行っている。	週4回の入浴日を設け、基本的に週2回の入浴支援を行っていますが、状態や意向に合わせた対応をしています。入浴時は、利用者の根底にある思いが聞かれる事もあり、介護計画に反映しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握しながら支援を行っている。その日の本人の状態に応じて休息を促したりしている。必要な方には安心して眠れるように主治医と相談しながら眠剤の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示、内服の変更、受診の結果はその都度、全職員に申し送りや記録の活用により周知できるように取り組んでいる。各々の病状に対し服薬している薬の効能、副作用についても把握する様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの習慣、趣味等を把握しその方にあった役割をして頂き、後に感謝の気持ちを伝えるようにしている。職員との会話を楽しめるよう努めてもいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩の機会を設けている。自宅へ帰りたときは家族の許可を得てから送迎することも支援している。	利用者全員での外出は困難な状況です。受診時に車窓から景色を眺めたり、中庭での外気浴、庭の果樹を見物、周辺の散歩、公園で桜見物、外出行事で道の駅や神居古潭を訪れるなど、利用者の気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は管理職で金銭管理しているが、買い物など付き添って自分で支払いできるように見守りしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方は、上手な声掛けをして、その方に合った方法でお手伝いしています。手紙や小包は管理職に確認してから本人に声掛けして確認して頂き開封をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームに、季節にあったディスプレイを飾っている。天窓からは光が差し込み、明るく。解放感がたくさんで、居心地がよい空間となっている。	居間は吹き抜けになっており、中庭を挟んでユニット間を行き来できます。芝生の中庭は洗濯物を干したり、利用者の息抜きの場となっています。利用者それぞれが、お気に入りの場所でおやつを食べるなど寛いで過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームにはソファ、食堂には食卓テーブルがあり、夏期には中庭に椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんで頂ける様配慮をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏季は猛暑の場合、扇風機をそれぞれの利用者の家族さんに用意いただいています。壁に写真を飾ったり、馴染みの物をおいたりして居心地のよい居室なるよう工夫しています。	約7.5畳ある居室には、クローゼット、洗面台を設置しています。利用者や家族が揃えた調度品や生活用品などは動線に配慮して置かれており、安心、安全に過ごせる環境になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況、生活歴を把握し、混乱しないように気を配り、安心して頂けるような声掛けをしている		